

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

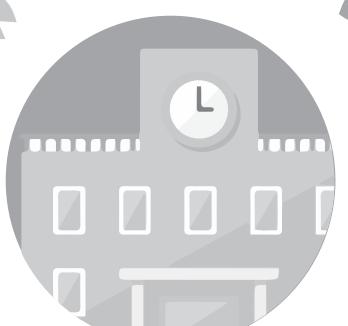
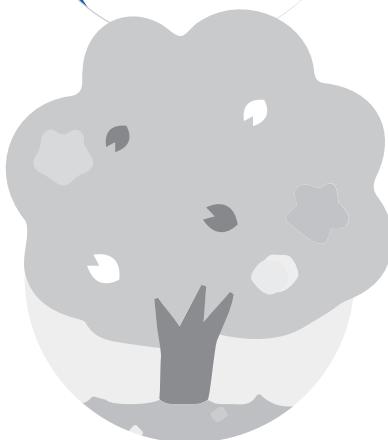
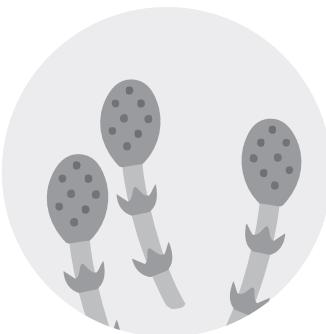
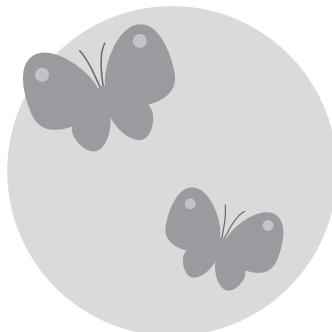
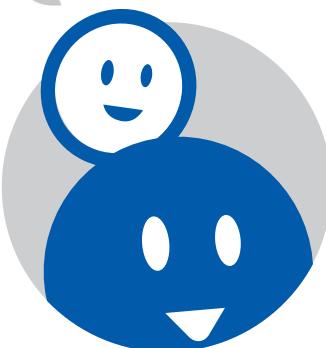
Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

# mingle

みんぐる

2018.3  
Vol. 58



特集

## 2017年度を終えて

～たぶんかフリースクールの思い出と合格体験記～

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

インターンの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね！多文化共生センター東京のできごと 9



認定NPO法人

# 多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

## 私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。

外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

### 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### 少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

### 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

## 私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を發揮し、日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通じて、外国にルーツを持つ子どもたちが日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

## 私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

：たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受検を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

- ：外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査
- ：研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- ：メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

：教育相談

：多言語による高校進学ガイダンス

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

：子どもプロジェクト（学習支援）

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

：親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

# 多文化共生センター東京事務局及び荒川校の移転について

代表理事 柄木 典子

2017年度も多文化共生センター東京の活動に温かいご支援をいただきまして、たいへんありがとうございます。4月からは、荒川区よりご提示いただいた場所で、新たに活動を始めることとなります。

2013年4月にそれまで活動していたJR三河島駅近くの旧真土小学校から現在の旧小台橋小学校へ移転し、5年が過ぎました。あまり交通の便が良くないことから、子どもたちが来られるかという不安もありましたが、学びを求める子どもたちは増え続け、中には多摩地区や近県から通学する生徒もいます。今年度は荒川・杉並両校を合わせて70名を超える外国にルーツを持つ子どもたちが学びました。また、5年間の旧小台橋校舎で学んだ荒川校卒業生は、150名以上に上ります。しかし、この旧小台橋小校舎とも3月末でお別れとなります。4月からは、区内の旧教育センター2階で活動します。荒川校は、2005年にフリースクールを開校して以来、4回目の移転です。子どもたちの居場所でもある学び場の必要条件は、できる限り同じ場所で長く活動し続けることです。巣立っていった子どもたちがさまざまな思いを伝え戻ってくる場所でもあるからですが、実際は、転々としているのが実情です。

フリースクールの運営においても、場所の問題は切実で、12年に渡り使用許可という形で場所を提供いただいている荒川区には心より感謝申し上げたいと思います。行政の外国にルーツを持つ子どもたちの学びへの理解とサポートは、今後も必要であり、多くの団体が望んでいる安定した活動場所確保については、都や区の協力が必要です。

皆さま、2018年度も引き続き、当センターの活動にご支援いただきますようお願い申し上げます。

## 《活動場所の変遷》

年度	活動場所
2005年	西日暮里民間アパート
2007年	旧真土小学校 3階
2013年	旧小台橋小学校 3階
2018年	旧教育センター 2階



2013年から  
5年間活動  
3月末で移転  
荒川区より使用許可をい  
ただいた旧小台橋校舎。



2018年4月から活動開始！  
新移転先「旧教育センター」2階  
(荒川区荒川4丁目19-1)  
1階はあさがお作業所さんのパン工房です。



2007年から7年間活動  
荒川区からお借りした廃校の旧真土小学校跡。  
現在は更地になっています。

# 特集

# 2017 年度を終えて

## ～たぶんかフリースクールの思い出と合格体験記～

2017 年度は荒川校 41 名、杉並校 24 名の合わせて 65 名の生徒が高校への進学を決めました。

進学先は東京都立高校が 44 人、埼玉県立高校が 12 人、千葉県立高校が 2 人、そして私立高校が 7 人です。今年度もあたたかい応援とご支援、ほんとうにありがとうございました。

都立高校の在京外国人対象入試（英語か日本語の面接と作文）で合格した生徒たちが書いた作文をご紹介します。

多文化フリースクールの生活。

私はパトリックです。ヨーロッパから来ました。2017年5月に日本に来ました。2017年6月から多文化フリースクールで勉強しています。多文化フリースクールで日本語を勉強しました。日本語の勉強の中で漢字が一番難しいです。多文化フリースクールで、友達といっしょに勉強しました。またいっしょにハドミントンをしました。

高校に合格するのに、毎日めんせつと作文をれんしゅうしました。作文はよく出来るのでめんせつに集中しました。合格した時はとても嬉しくて、びっくりしました。

今、両親に言いたいことは両親がサポートしてくれたので、自信を持つことが出来ました。また、多文化フリースクールの先生に言いたいことは僕は先生達にとてもかんしゃしています。先生達がいながらも合格出来ませんでした。ありがとうございます。

## 合格体験記

(タイから来日、4月からフリースクールで勉強)

私は田柄高校で受験をしました。受験前にたぶんかフリースクールで練習をしました。先生からいろいろな事を教えてもらいました。作文の書き方や生活の事など、練習していた時、私はとても困りました。とくに作文の書き方です。私の国はタイです。タイの作文の書き方は全然違いますから、本当に困りました。でも先生と練習しましたから、私は上手になりました。とても嬉しかったです。そして、受験の日がきました。あの日は寒くて、興奮しました。学校へ行った時、私はドアで止まって、空を見て、自分に話しました。「頑張って」と言いました。そして受験を始めました。私の作文のテーマは「国際社会で生きていくうえで、何が大切ですか」でした。私は3回読みました。でも意味が少し分かりました。それで良く書きました。作文も終わると次は面接です。面接の前は十分だけです。面接の部屋に入った時、二人の先生に会ったらもう、面接が始まりました。時々理解できなかった言葉があったけれども、「やさしい日本語でお願いします」と言いました。15分かかりました。しかし、まだ終わりません。あと6日で発表です。6日、私はとても心配していました。そして、発表日がきました。私は合格しました。とても、嬉しかったです。私はそれを成功させました。時間と労力を無駄にしませんでした。しかし、今私は十分な努力をしていません。まだ足りないと思っていますから、私はもっと頑張りたいです。高校はもっと難しい。でも頑張ります。これは私の約束です。

(ネパールから来日、8月からフリースクールで勉強)

受験前に、いっしょけんめい練習しました。たくさん作文を書きました。ほうかごにのこって面接の練習をしました。その時、きんちょうとごうかくをできるかどうかのきもちでした。受験の日は、どきどきしました。作文のテーマは国際社会に生活するのに言語以外、何を大切だと思います。面接はよくできました。私は先生が言ったことはぜんぶわかりました。私はめんせつがたのしかったです。

合格はっぴょうの時、どきどきしました。自分のばんごうを見た時、とてもうれしくてしんじられませんでした。すぐに父にでんわをしました。父はよかったですといいました。

作文も面接もたいへんでした。とくに日本語がよくできないのでめんせつはたいへんでした。でもいっしょけんめいがんばりよくできるようになりました。高校でもがんばります。

(中国から来日。9月からフリースクールで勉強)

私は六郷工科高校にはいりました。1月26日テストがありました。私は受験前は頑張りました。私はとても心配しました。だから私は一生懸命に勉強しました。テストは難しかったです。

1月26日テストの時、私は活気づきました。でもテストの教室は静かでした。私たちいちばんは作文を考えました。作文は高校の生活と自分の得意はなんですかでした。作文は簡単でした。テストの前、高校生活の作文を練習しました。だから簡単です。得意は料理とバドミントンです。

面接の時、私は最後だから緊張しました。先生は3人。先生たちはおもしろいです。でも私は本気にしました。

2月1日私は自分の合格の情報を知ってとてもうれしかったです。私の家族もみんなうれしかったです。

## =多言語数学用語集への感想=

# 5か国語訳（英語、中国語、ベトナム語・タイ語、ポルトガル語）完成！

多文化共生センター東京では、平成28年度三菱財団社会福祉事業・研究助成を受け、多言語中学数学学習用語集を作成しました。中学校数学で使われる用語の5か国語訳と用例を図も入れて、わかりやすく説明しています。たくさんの方々が使えるように全国からダウンロードができる教材として、昨年から英語、中国語訳をWebサイトに載せ始め、更にベトナム語、タイ語、ポルトガル語を加えた5か国語訳の用語集が完成しました。全国からたくさんの感想、ご意見をいただき、ありがとうございました。皆さまからいただいた感想、ご意見の一部をお伝えします。

私はいま中学生を教えていないのですが、図がわかりやすく、単元によっては小学生でも参考にできるかなと思いました。小6はこれから算数全部の復習の単元に入るのでプリントアウトして使える部分をマーカーで示した上で活用してみます。

理科や社会も出してほしいです。

数学用語集を拝見しまして、あちこち紹介させていただいていると「売ってほしい」「どこに売っている?」という外国ルーツの当事者や保護者からの声を多く耳にします。日本語の壁は大きく教科用語に四苦八苦している現状です。  
貴センターのHPから勿論ダウンロード可能と拝読しておりますが、やはり、小冊子の方が使いやすく要望が多いです。

ウェブサイトより「中学数学学習用語集」をダウンロードさせていただきました。英語版を見させていただいた感想を以下書かせていただきます。

全体として非常によくできています。外国にルーツを持つ中学生に必要な情報が図入りでとても分かりやすく、索引もついて使いやすく感じました。

改善点としては項目ごとに改ページすると学習の際にそこだけを配布でき、重複が避けられます。(1冊を渡しても情報量が多くて活用しない可能性が高いので当方では学習の度に渡して、学習が進むと1冊になるようにしたいと思います)

また、母語からの逆引きができるような索引があるといいと思います。簡単な語彙集を当方スタッフが試作したことがあり、巻末の索引のデータの語彙を多言語語彙と対応することで全分野を網羅したもののが作れるのではないかと申しております。

私は中国語がしゃべれないので、このテキストは、中国ルーツの中学生に教える時に非常に役立ちました。2等辺三角形が等腰三角形と表現されることなど、少し説明に困った時、非常に助かりました。高校入試問題を解く時の説明に使わせてもらっています。

HPからのダウンロード数(2018年2月現在)

翻訳言語	ダウンロード数
英語	1032件
中国語	894件
タイ語	105件
ベトナム語	184件
ポルトガル語	211件

Webにこの教材が上がってから、8か月間でダウンロード数は、総計2426件になりました。関東だけでなく、大阪や東北からもアクセスしていただいている。また、各言語訳については、間違いについての指摘もいただいており、更により良いものにしていく必要があります。今後もご意見をお寄せください。(榎木)

多文化共生センター東京HP <http://tabunka.or.jp/>

# イチオシ

『翻訳できない世界のことば』(2016/4)

『誰も知らない世界のことわざ』(2016/10)

エラ・フランシス・サンダース 著



創元社 定価：各 1,728 円（税込）

今回は創元社の「世界を旅するイラストブックシリーズ」から2冊紹介。

日本語教師という職業柄、日本語に対してはもちろん、他の言語に対してもとても関心がある。あるにはあるが、そうそう何か国語もマスターできる頭脳は持ち合わせておらず、生徒たちと雑談しながら、「これはあなたの言葉でなんと言うの?」と聞いて真似をして、そしてすぐ忘れてしまうということの繰り返し。そんな私に友人がプレゼントしてくれたのがこの2冊。

2016年4月に出版された「翻訳できない世界のことば」は、さまざまな地域の言語から他の言語に訳す時に一言では言い表せないような固有の言葉を集めた単語集。かわいらしいイラストとともにひとりでのんびり味わうのにもいいし、とりあげられている言葉を母語にする友達と一緒に見るのも楽しい。

半年後に出た『誰も知らない世界のことわざ』は、世界のユニークなことわざや慣用句を紹介した一冊。それぞれのコミュニティの人々の“生きる知恵”がつまった言葉の数々には思わずふふっと笑ったり、なんかその感じわかるっ!と納得したり。

日々の偶然の出会いの中でふれあうたくさんの言葉、その背景にある文化に、好奇心と尊敬の念を忘れずにいたいと思わせてくれた2冊だった。(中野)

## インターの 古 倉地 愛羅 さん

12歳のときにフィリピンから日本に来て日本語がわからないまま区立の中学校に入学しました。日本語で話せなかつたので友達もつくれず、授業で話している内容も聞き取れなくて途方に暮れました。学校から帰ってきたらあまりの辛さに泣いて、たくさん食べて、ぼーっとして、お風呂に入って、寝て、起きて、また学校に行くのを毎日繰り返しました。

その一か月後、たぶんかフリースクールの「ハートフル」日本語教室に通い始めました。中学とまた同じことをするのかと思いドキドキしました。しかし、多文化では自分と同じく日本語を話せない中学生たちがたくさんいてホッとした。先生たちもとても親切でわからないことがあれば丁寧に教えてくれました。例えば、友達に使う言葉や先生に使う言葉、コミュニケーションの取り方、漢字の読み書き、宿題の解き方まで教えていただきました。多文化に通えば通うほど、泣く日も減ってきて、元気が出るようになって、自然と明るくなりました。気づけば、友達と日本語で会話をするようになって、授業の内容も分かるようになりました。

「ハートフル」が終わった後、土曜日のボランティア教室に通い始め、高校受験を迎えるました。在京外国人対象入試を受けるので面接練習や作文の練習もしました。残念ながら、在京推薦で合格できませんでした。気持ちを切り替えて一般受験に向けて1か月5教科を猛勉強しました。5教科の傾向を抑えた参考書を1冊買って、暇な時間があれば解いて暗記しました。なんとか合格できました。そして高校を卒業後、青山学院大学に進学し、今多文化でインターンとして働いています。

多文化でのインターンの仕事は授業のアシスタント、生徒たちとの触れ合い、雑務作業をやります。多文化の生徒たちは元気いっぱいいつも元気づけてくれます。先生たちは相変わらず親切で懐かしく感じます。今は高校入試が終わった生徒とそうでない生徒がいるのである程度気を引き締めて、高校入学後困らないように自分の経験からいろいろ話しています。多文化でインターンとして働くことができて、とてもうれしく思っています。



## 〈たぶんかフリースクール荒川校〉

2018年という新しい年が明けてから、例年のごとくですが、本当にあつという間に3月に。この年末から冬休みを挟んでの3ヶ月は、生徒にとっても講師にとってもやることが目白押しの戦いのような毎日です。受験に関しての様々なこと一つ一つに思わぬハプニングが勃発し、担任は誰もがいつも駆け回っているという状況です。願書の提出に行った生徒が、通常の校門が工事中でその脇の通用門から入るのがわからず、何度もぐるぐる回ったあげく、「せんせい、ヘルプ・ミー！だれもいないです。学校入れないです。」と悲鳴交じりの電話。どこにいるのか聞いても本人もわからずこちらも指示できず（え～、学校に入れないなんて…そ、そんな!?）。結局は、高校の先生がうろうろしていた生徒を見つけてくれ

て無事に出願となりましたが。いつもこのように思ってもいないことが突然・突発的に起こるので、大事なことのある日は最後完了するまで携帯電話を握りしめ、はらはら・ドキドキの連続です。私のクラスは、8、9月からフリースクールに来た生徒達で、まだまだ心配の多い生徒達ですが元気に毎日笑顔で前向きで、出来る限りの日本語を駆使して自分の意思を伝えようとする努力が見えてきて、ほんとにこれからが頑張りどころの生徒たちです。そんな彼ら・彼女らと過ごせるのもあとほんの数日になってしまいました。まだまだ一緒にやりたいことがたくさんあるのですが、終わりは新たな始まりの橋渡し。誰もが多文化での時間を糧にして大きく羽ばたいてほしいと思います、心から…。（藤井）



## 〈たぶんかフリースクール杉並校〉

杉並校では現在、中国、ネパール、フィリピン、タイの4か国出身の計24名の生徒が学んでいます。

この原稿を書いている時点（2月末）では、在京外国人枠の試験が終わり、合格した生徒たちは高校入学後に備えた勉強に励んでいるところです。しかし、まだ多数の生徒にはこれから受験が控えています。とくに今年は埼玉の受験生が多く、緊張の日々は3月まで続きます。

生徒たちは多くはフリースクールに来てもう半年以上たちました。出身の国や年齢はさまざまですが、すっかり仲良くなりました。それそれが日本語だけではなく自分の言葉を使って、お互いに会話しています。それでもちゃんとコミュニケーションが取れ

ているのが不思議です。在京の試験で残念ながら不合格となってしまった生徒には、友達になった他の子たちが、抱きしめて慰めていました。

日本の生活にもすっかり慣れたようですが、1月に大雪が降った時には、雪を見たことがない生徒たちは大はしゃぎ。みんなで雪かきをして、雪を満喫しました。

もうすぐ卒業の日を迎え、生徒たちはそれぞれの道へと進んで行きます。仲良しの仲間たちともお別れです。寂しい気持ちになると思いますが、ここで過ごした間の多文化体験を大事にして、未来を切り拓いていってほしいと思います。（小綿）

## 〈卒業を祝う会〉

3月17日、2017年度たぶんかフリースクール卒業を祝う会が開催されました。

今年度の卒業生は65名。44名が都立高校へ進学し、埼玉県立高校へは12名、千葉県立高校へは2名、そして7名は私立高校へ進学します。

当日は生徒たちの他に、支援企業のみなさんや保護者の方々、ボランティアさんや講師の先生など、お祝いに駆けつけてくれた人々で会場はいっぱいになりました。クラス発表ではそれがたぶんかフリースクールの思い出を発表したり、支えてくれた方々へお礼の言葉を伝えたり、未来について語った

り。素晴らしい演奏のBGMや思い出の写真を掲げての発表など、笑い声と拍手にあふれました。

生徒たちの進学先はさまざまで、都立高校だけでも10校以上。これまで机を並べて勉強していたクラスメイト達も4月からはそれぞれの高校へ進み、なかにはフリースクールからはひとりだけの進学という子も少なくありません。卒業を祝う会は門出であるとともに、別れの日でもあります。でもそれは悲しい別れではなく、笑顔の別れ。お互いに肩を抱き合い「がんばろう！」と言い合う彼ら・彼女らの姿は希望であふれました。卒業おめでとう！

(事務局 中野)



## 〈ハートフル 荒川区日本語適応指導事業〉

平成29年度のハートフル初期日本語指導の授業は、4月11日から始まりました。

通室による指導(2か月間)を受講した生徒はのべ34名、補充による指導(3か月間)を受講した生徒はのべ25名で、今年度は例年になく多くの、来日して間もない、日本語が母語ではない生徒たちが、ハートフルで日本語の基礎を学びました。

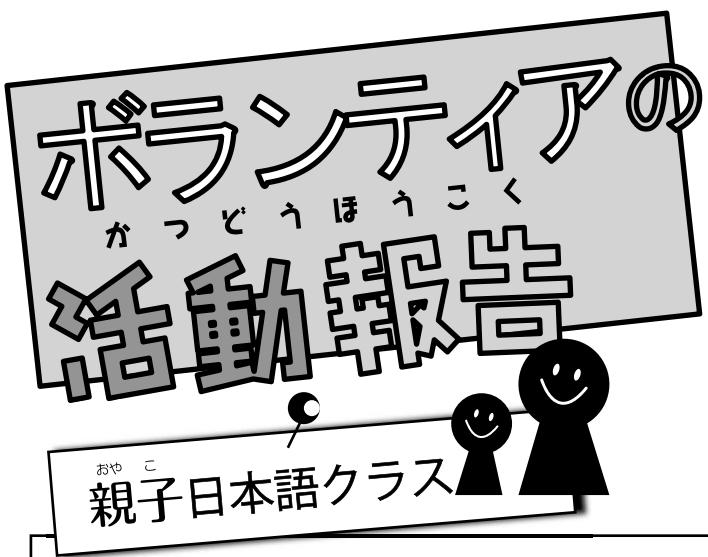
教室に来る生徒は、気持ちの切り替えが苦手で、集中するまでが長く、母語での会話に熱中し過ぎてしまい、なかなか収まらないことも少なくありません。しかし、ひとたび取り組めば、自分たちで楽しみ方を探し出すという、頼もしい長所を持っています。そのため、学習に取り組んでいるうちに、生徒の表情が変わっていく様子を間近で

見る機会にも恵まれました。

「もらう」と「くれる」の違いがわかって、それを他の生徒に教えてあげる男の子、助詞の使い方が気になり、図を使って何とか理解しようと努める女の子など、楽しみ方はそれですが、その時の彼らの表情はとても真剣で、生き生きしたものでした。

ただ、楽しむためのきっかけが見つからないと、彼らの顔にはすぐに眠気や疲れが表れます。

刻々と変わっていくきっかけを見つけ出すのは大変です。しかし、自分に合った学び方に出会った生徒の姿は、傍から見ても喜ばしいものです。きっかけを一つでも多く、自分で見つけられるように成長してくれることを願い、今後も指導に当たりたいと思います。(信田)



親子日本語クラスには、小学校入学前から高学年まで、色々な子がいます。

私は毎回、今日はどの子と一緒にかなど、ドキドキわくわくしながら出かけます。何回も一緒に勉強したことがある子もいれば、初めての子もいます。おしゃべりな子もいれば、恥ずかしがりやな子もいる、甘えん坊の子もいるし、黙っている子もいます。先日は、恐竜を見せればなんでも名前が言える、スーパー恐竜博士とYoutubeでトランプマジックを学ぶマジシャン女子、なぜか牛丼好きなら歳児にも出会いました。色々な子と接しながら意識しているのは、その子がどんな子なのかを知ることです。お絵描きをしたり、本を読んだり、お話したりしながら、少しずつ心を開いてくれて、笑顔になってくれるの

を見ると今日も来てよかったなと思います。

もう一つ、このクラスのよいところは、子どもたちが何をしたいのか選べることだと思います。「今日は何をしようか?」という会話から始まって、私はそれをサポートする。算数でも苦戦する私は、子どもと一緒に頭を悩ませて考えることもありますし、子どもに答えを教えてもらうこともあります。でも個人的にはそれでいいのではないかと思っています。先生が全て答えを持っているのではなくて、学びたいことを誰かと一緒に学ぶことができるがこのクラスの意義なのではないかと思います。次回はどんな発見があるのか、今から楽しみです!

(小山)



昨年ボランティアを始めたばかりの頃は、「何をすれば相手の役に立つか?」と考え過ぎて、勝手な思い込みで空回りしていた様な気がします。しかし回を重ねるうちに、少しずつ変わってきました。日本語教師だったせいか無意識に‘コミュニケーション=言葉’と思い込んでいたようです。そうすると、まだ日本語をほとんど知らない相手に対して私のほうからの一方通行になりがち。

気がつきました!漢字の筆談、下手な絵、スマホの写真や辞書機能、何でもOK。要は、先ずお互いの中に相手を取り込むこと。一期一会の信頼関係。それによって今、何をするのかが自然に見えてきます。稀に相性の合わない人が居ても、自然体で受け入れます。

春。子どもたちはそれぞれ文字通り新しい季節を迎えようとしています。大人の都合で置かれてしまったであろう楽ではない状況をしっかり受け止めて未来を見ています。

これから人生を始めようとする若いエネルギー。本人は意識していないなくても、私には懐かしく眩しく感じられます。

彼らにエネルギーのおすそ分けを貢って、「もうひと踏ん張りしてみるか」なんて気になります。何を与えたのかは知ることはできないけれど、何を貢ったかは分かる。それでいいのでしょうか。

それから、魅力的且つ個性的なボランティアの諸先輩にも感謝です。(雨宮)



# いいね！



facebook.com/tabunkatokyo

## 多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



46人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

1月25日

いよいよ明日は在京外国人対象入試の試験日！今日も遅くまで面接の練習をしている生徒たち。

つい1週間前くらいまでは準備した内容も覚えきれず「大丈夫だろうか…」と心配だった子も、毎日練習するうちにどんどん上手になりました。毎年のことながらこの時期は、「〇〇高校に入りたい」という強い気持ちが大きな力となっていることを感じます。

今日はボランティアさんに来ていただいて、はじめて会う人との練習。緊張しながらもしっかり答えられた生徒たちは手応えを感じたようで、みんなとてもいい顔をして帰っていました。そのいい顔のまま、明日も自信をもってがんばってほしいと思います。



72人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

2月1日

今日は推薦・在京外国人対象入試の合格発表でした。

荒川校杉並校あわせて30人が受験し、24人が合格しました！

入学手続きを終えてフリースクールに戻ってきた生徒たちは友だちに拍手で迎えられ、しっかりとした口調で「合格しました」と報告してくれました。昨日までは「合格できなから斐リピンに帰りたい…」と気弱なことを言っていたPくんはほっとした表情。いつも余裕のある態度のDくんも今日は平静を装っていてもうれしさがにじみでています。

でも今回残念だった子も…。

仲良しのNさんとWさん。Wさんは埼玉なので今回は受験をしていないのですが、Nさんの結果が気になり授業中もそわそわ。

「メールをしても返事がありません」と心配していたNさんから連絡がきて合格できなかったことがわかり、Wさんの顔を見ると、彼女の目にいっぱいの涙が。Nさんの悔しい気持ちを思って、自分で涙をこらえられなかったようです。

フリースクールに戻ってきたNさんをぎゅっと抱きしめていたWさん。都立の前期・一次入試は2月23日。埼玉の県立入試は3月1日。まだもう少し、机を並べてふたりでがんばれ！NさんWさん！

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。

皆様「いいね！」をよろしくお願ひします。